

地震火災対策実行計画（一宮東地区） 平成29年3月作成

平成28年10月～平成29年1月にかけて、一宮東地区においてこれまで地震火災対策について3回の検討会を実施しました。

第1回検討会の中で、出火防止・延焼防止・安全な避難を実施する上で課題として挙げられた項目と、その課題に対して、第2回検討会の中で話し合った一宮東地区の中で優先的に実行していく対策について取りまとめています。

1. 出火防止対策

地震による火災は同時多発的に発生し、消防の対応力を超えてしまうことが想定されます。また木造住宅が密集する地域では、家屋やブロック塀などの倒壊により道路が閉塞し、消防車両が入って行けない場合があります。

こうした地域では、一つの出火から大規模な火災になる可能性もありますので、まずは**火を出さない「出火防止」**の対策が特に重要です。

<課題>

ブレーカーを落として避難することが難しい

火災への防災意識が低い

ガス器具・ストーブからの出火

家が密集しており、木造住宅が多い

木造家屋の耐震化、転倒防止対策が進んでいない

<対策>

- ① スイッチを切る、コンセントを抜く、ブレーカーを落とす【住民】
- ② ブレーカーを復旧するときの注意の把握・講習【住民・地域】
- ③ 隣近所での声かけ、自治会便りでお知らせ【住民・地域】

- ① ガス(LPガス含む)の元栓を締める、ガス漏れ検知器の設置、灯油タンク等の漏油防止、ガス・石油ストーブ等を止める【住民・地域】
- ② ストーブ等の近くに可燃物を置かない【住民】

- ① 耐震診断を受ける、住宅の耐震化【住民】
- ② 家具等の転倒防止、啓発【住民・地域】
- ③ 住宅耐震化の補助・啓発【行政】

2. 延焼防止対策

出火直後の火が小さい段階では、まずは住民個人が初期消火を行い、火が拡大し壁や天井にまわりそうになった段階では、周辺住民の協力を得て初期消火に当たるなど、**住民自らが初期消火に取り組む**ことが重要です。

しかし、初期消火に取り組む場合には、常に退避路を確保し、**少しでも身の危険を感じたときには、直ちに避難**することが必要です。

<課題>

各戸の設置状況は不明

消火用水が不足

近所付き合いが少ない

道が狭く消防車両等が入れない・入れなくなる可能性がある

<対策>

- ① 住宅用火災警報器の設置【住民・地域】
- ② 消火器、消火ボール等の設置、風呂水の汲み置きや雨水タンク等による消火用水の確保【住民・地域】
- ③ 街頭消火器、消火ポンプ、消防ホース等の設置【地域・行政】

- ① 消火用機器や消火用水の場所の確認・点検【住民・地域】
- ② 自主防災会の消火訓練の実施・参加、消防資機材の使用法の講習【住民・地域・行政】
- ③ 隣家等との協力による消火活動、伝達方法や日頃の連携、啓発等【住民・地域】

3. 安全な避難対策

地震時には、安全に避難することが困難となる可能性がありますので、**早め早めに避難**することが重要です。そのためには、避難場所と避難所の安全性の確認と避難ルートを想定し、避難訓練を行っておくことが必要です。

<課題>

避難場所が知られていない

家屋やブロック塀の倒壊でルートが塞がる可能性

どのように情報を周知するか

要配慮者が把握できていない

<対策>

- ① 複数の避難場所の確認・周知【住民・地域】
- ② 避難場所、避難方法を掲示板、回覧板に掲載、勉強会でお知らせ【住民・地域】
- ③ より安全な避難場所の検討や避難場所を守る方策の検討【住民・地域・行政】

- ① 避難ルートの危険箇所把握・迂回路の想定【住民・地域】
- ② 家庭や地域で避難ルートを確認【住民・地域】
- ③ 風向きを見て安全な方向に逃げる、安全な方向の伝達【住民・地域】
- ④ 懐中電灯、ヘッドライト等の準備、非常用照明の準備【住民・地域】

- ① 早めの避難、消火器等で初期消火が難しい場合は避難【住民・地域】
- ② 火災の場所、情報を把握する【住民・地域・行政】
- ③ 一斉メール、町内放送、サイレン、ハンドマイクや大声等による避難情報の伝達【住民・地域・行政】
- ④ 非常用持ち出し袋の準備【住民】

- ① 要配慮者のリスト、個別計画を作成【地域・行政】
- ② 隣近所、若い人との協力【住民・地域】
- ③ 防災倉庫に車イスや担架を装備、装備品の周知【地域】